

～歯科医学・歯科医療から  
国民生活を考える～  
第2回歯科プレスセミナー

## 歯から口腔全般の専門家へ—— 時代とともに進化する 歯科医師



### 講演2 歯科医師は口腔がんのキーパーソン

昭和大学歯学部 顎口腔疾患制御外科学 教授  
歯科病院 口腔外科診療科長 新谷 悟 氏



新谷 悟 (しんたに・さとる) 氏  
昭和63年岡山大学歯学部卒業、平成4年同大学院歯学研究科修了。愛知県がんセンター頭頸部外科、岡山大学歯学部附属病院第2口腔外科を経て、9年ハーバード大学歯学部分子病理部門に博士研究生として留学。13年愛媛大学医学部歯科口腔外科講座助教授、18年より現職。主な著書に「開業医だから発見できる口腔がん」(クインテッセンス出版)など。

#### 増え続ける日本の口腔がん。早期発見の責は歯科医にあり

「口にはひとのほとんどの幸福と不幸が集中する」(鷲田清一著「食は病んでいるか」より)といわれます。たしかに口は災いの元になる反面、「ありがとう」の言葉で人を喜ばせることもできるし、口で食べることは至上の幸福です。食べることと話すことは人類共通の幸せであり、それが生活の質を決めているといえます。そして歯科医の役目とは、まさにその幸せを守ることにほかなりません。

さて、人の生を奪う病気に「がん」があります。これは昭和56年以来、日本人の死因の1位を占める病気。日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで死んでいます。しかし、口の中にもがんができることはあまり知られていません。口腔がんはがんの約2～4%を占め、年間約7000人が罹患し、約3000人が亡くなっています。その男女比は3:2で男性に多く、60歳代でもっとも多く見られています。つまり口腔がんは社会の高齢化とともに増加し、2015年には1万人以上になるという予測もあるのです。

また他のがんと同様に、口腔がんは発見が早いほど治療の成功も生存率も高まります。しかも口腔がんは胃がんや大腸がんなどと違い、口を開ければ見える。早期発見が容易ながんといえます。にもかかわらず、わが国では早期症例の割合が低いのが現状です。たとえばもっとも見分けやすい口唇がんや舌がんであっても、1987年当時はそれぞれ18.7%と23.2%。2003年では41.2%と32.4%に上昇したものの、まだ十分とはいえません(グラフ参照)。

口腔がんの部位別早期がんの比率

部位	1987 早期症例の割合	2003 早期症例の割合
口唇	18.2%	↑41.2%
頬粘膜	8.4%	↑14.2%
臼歯三角	17.2%	4.7%
上顎歯肉	6.3%	↑10.2%
下顎歯肉		↑14.1%
硬口蓋	20.4%	19.0%
口腔底	15.5%	↑17.5%
舌	23.2%	↑32.4%
その他	0%	0%

1987年「日本TNM分類研究頭頸部癌関係資料」  
2003年「日本頭頸部癌学会資料」より

現在、日本における口腔がんの罹患率・死亡率は30年前の約3倍に増加しています。一方で、アメリカやイギリス、フランス、イタリアといった他の先進国では口腔がんによる死亡者数が急激に減少。これは国を挙げての口腔がん対策が功を奏した結果といえます。とくに米国では、口腔がんの早期発見と早期治療にもっとも貢献するのは歯科医師だとされています。歯科医は患者の口腔内を日常的に診察し、口腔衛生指導を行う専門家なのだから、これは当然のこと。日本でもまったく同様のことがいえるのです。

#### 歯科医による口腔がん予防と治療のメリット

歯科医が口腔がんの早期発見にもっとも寄与できるよう、私たちは3つの提案をしています。1つは、国民に口の中にもがんができることを知ってもらうこと。2つ目は口腔がん検診などを広く普及させる。そして3つ目は、口腔がんにならないよう予防すると同時に、口腔がんの早期発見検診システムを構築することです。口腔がん検診については、いくつかの地域の医師会ですでに実施され、成果を上げています。

またがんの予防については、(1)刺激物(とくにタバコやアルコール)を控える、(2)口の中を清潔にする、(3)口の粘膜に慢性的な刺激を与えないことが挙げられます。このうち、(2)と(3)はまさに歯科医が関与できる部分です。口腔内の衛生管理はもちろん、歯の形状や入れ歯の不具合などによる機械的刺激を緩和することで、口腔がん予防に大きく貢献できるのです。

口腔がんにおける歯科医の関与メリットは、治療面にもあります。たとえば、外科療法では顎や口蓋などの病変を切除したあと、再建が行われない場合もある。そこに歯科の視点と技術が加わることで、適切な再建はもとより、摂食嚥下や噛み合わせ、審美性をも考慮した治療が行える。そのためにも、歯科医による口腔がんの診断・治療・研究を進めていくことは急務の課題といえるでしょう。

#### ▶ 講演1 暮らしを守る、いのちを守る口腔機能

### CONTENTS

▶ 講演1 暮らしを守る、いのちを守る口腔機能



▶ 講演2 歯科医師は口腔がんのキーパーソン



▶ 総論 超高齢社会を迎え、変わる歯科医師の使命

#### 社団法人 日本私立歯科大学協会とは?

日本の歯科医師の養成は明治の時代に私立の歯科医学校からスタートした。その後、時代の要請に応え国の認可を受けて17校へと拡充(現在、歯科医師の75%は私立大学歯学部の出身)。その私立歯科大学・歯学部が集い、昭和51年に設立されたのが、社団法人日本私立歯科大学協会だ。同協会は、「歯科医学教育」「歯科医療」の現状・将来などに関する情報を社会に発信するほか、加盟校間の教育・研究・臨床・経営面等の情報交換、加盟校の教員・病院職員・事務職員・関連団体関係者等の研修といった活動を通じて、私立歯科大学・歯学部の振興に寄与している。

▶ 社団法人 日本私立歯科大学協会